第１回委員会における委員からの意見等について

食料管理	・今もなお2,400名以上が避難をされている倉敷市では、カレーライスや蕎麦等の麺類といった決まった食事しか与えられてないというような状況が続いている。避難所の中で自分たちが煮炊きできるような環境をいち早く整備することが必要である。 ・衛生上の管理で生野菜を食べることができないため、調理道具の備蓄が必要である。
衛生管理	・先般の西日本の豪雨災害において、避難所で外している入れ歯にカビが生えている状況も見受けられた。口腔のケアも求められる。
配慮が必要な方への対応	・ムスリムの方の食事への対応として、ハラール認証品の導入が必要である。 ・現在避難所に配置している多言語シートを基本計画等に記載することで有事の際の対応がスムーズになる。 ・要配慮者で絶対に外せないのが妊婦である。妊婦は、超急性期の段階からの把握と最良の場所の提供が必要である。また、要配慮者がしっかりと声をあげられるような仕組みづくりが必要である。
男女別・子どもへの配慮	・東日本大震災では、避難所において女性や小さな子どもへの配慮が少ないことにより、ストレスで体調が悪化した方、性犯罪に巻き込まれた方がいたが、熊本地震でも同様のことが起きた。そういったことを含めて見直す必要がある。 ・子どもが安心できるスペースや遊び場の確保が必要である。特に子どもの心のケアが重要であるが、なかなか追いつかないのが実情である。
ペットへの対応	・熊本地震において、盲導犬は法律では補助犬として、しっかりと守られているはずだが、アレルギーのことを過敏に評価するばかりに、一般の避難所に安心して避難できなかったという課題があった。 ・岡山県倉敷市ではペット同伴の避難所を設けているが、市民に十分に周知されていない、避難所運営職員にペットの避難所があるという情報がしっかりと伝わっていないという状況もあり、22組に留まっているという報告がある。
車中泊対策	・エコノミークラス症候群発症への対応として超急性期からの介入が重要である。
その他	・熊本地震では、直接死よりも震災関連死が４倍多く発生した。このようなことが直下型の地震の場合には起こりうるということを想定していただきたい。 ・基本計画と避難場所運営マニュアルとを一体化させていく必要がある。モノだけ揃えたからいいのではなく、どう運営していくのかを積極的に関わらせる必要がある。